

自転車利用実態定点調査報告

平成27年 12月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

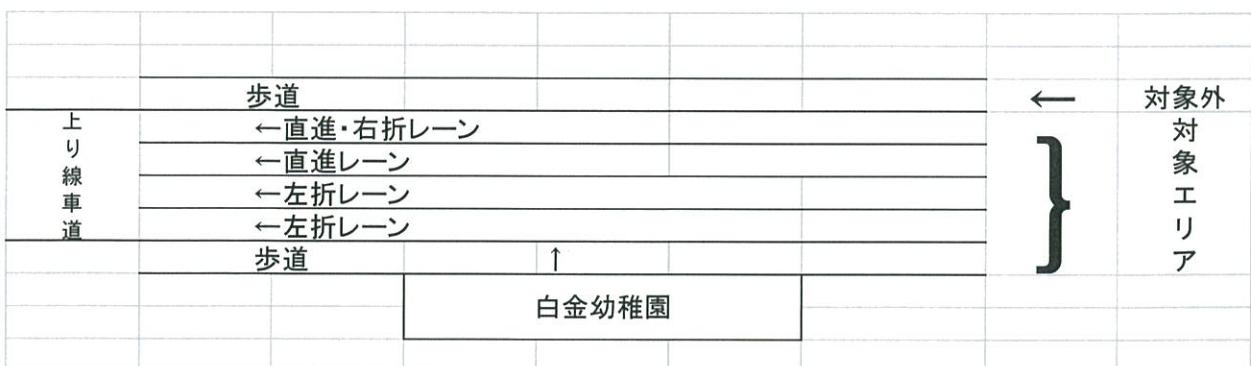
調査日時 平成27年 11月 16日

[午前]9:00~10:00

調査場所 • 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から 70m 程の上り坂)

概 要 • 調査対象(車道線:目黒通り上り 4車線及び歩道:幅員 3.1m
[一部歩道橋橋脚部分 1.5mあり])

調査対象外(反対側上り歩道)



調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票				
	走行空間	乗用	荷物	危険運転行為
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

調査員印： 年月日
大気： 時間：
調査員印：

<調査票>

【コメント】

- ◎走行空間においては、車道左側走行率は、25%であり、また、車道中央走行率も、26%、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の5割弱を占めている。
- ◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(21件)・ハンドルに荷物(7件)・片手運転(4件/内1件は、携帯電話を使用しながらの運転)・過積載(3件)・脇見運転・立ち漕ぎ(各3件)子乗せ後部席に荷物掛け・犬連れ運転(各1件)の順となっている。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の11/17午前)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(25%)に対し、前回(27%)と、ほぼ同様
上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・25%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・32%)の7割の水準

・子乗せ自転車

今回(9%)に対し、前回(15%)の 6 割の水準
上り地点(9%)に対し、下り地点(23%)の 4 割の水準

・電動自転車

今回(21%)に対し、前回(26%)の 8 割の水準
上り地点(21%)に対し、下り地点(37%)の約 6 割の水準

・危険運転行為 上り地点の [肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転] に対し、
 下り地点では [肩に荷物・ハンドルに荷物・立ち漕ぎ] と、
(違反行為を含む) 共通項目は、肩に荷物・ハンドルに荷物の 2 件となっている。

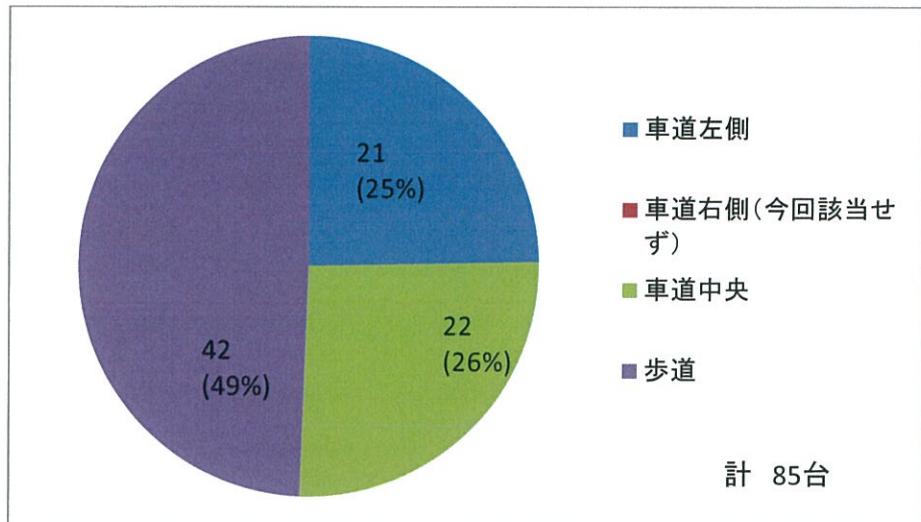
なお、中央走行者については、依然として電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

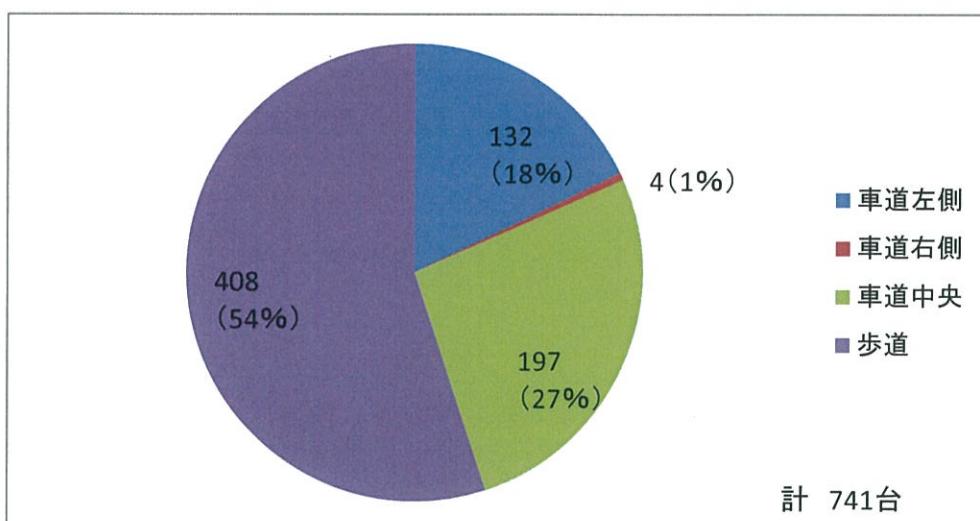
本年 6 月に道路交通法が改正され自転車利用者にとっては、交通ルール・マナー等の遵守が徹底された。

9 月までの減少傾向から一転して、10 月に上昇し、今回の車道左側走行率のデータは、前回のデータ並みであった。

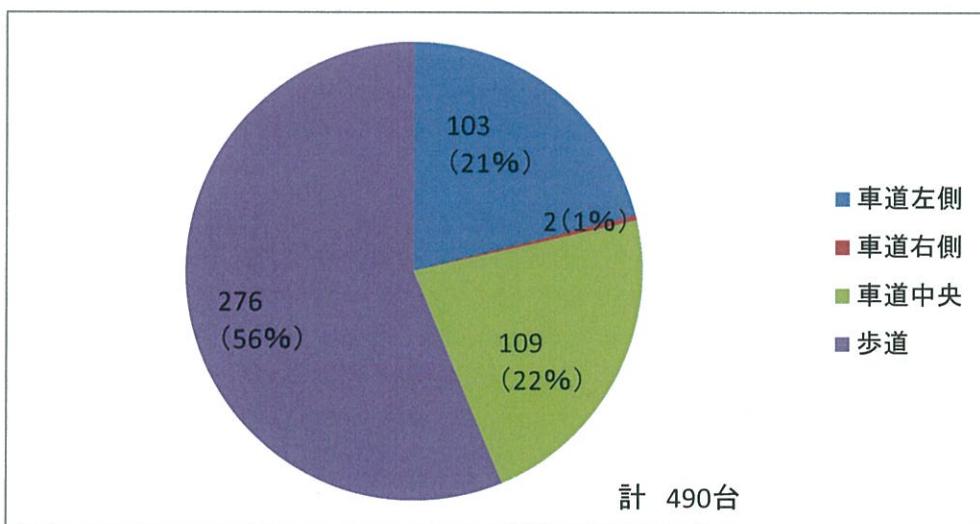
自転車総合ビル前と同様に、秋の交通安全運動の影響なのか?
引き続き、今後の状況を見守りたいものである。



* 参考)



調査期間 26.7～27.5 (道路交通法改正前)



調査期間 27.6～27.11 (道路交通法改正後)

